手作り仏壇で生き生きと！！

家での習慣を取り入れ、落ち着きを取り戻す

社会福祉法人　函要会
特別養護老人ホーム　韮山･ぶなの森

ユニットリーダー　　佐藤　綾乃
ユニットサブリーダー　土屋　敦子

はじめに

- 私たちのユニットには、認知症状の重い入居者様が、多く生活されています。しかし、どの入居者様も1ヶ月寄りそったケアをすることで、落ち着きを取り戻し、穏やかな生活を送られています。
- 今回は、その中でも特に、入居当初、認知症状が顕著に現われていた入居者様を事例に上げ、取り組みと成果を発表させて頂きます。
- なお、本発表にあたり、本人･家族の同意を得ています。

発表内容

1. 施設紹介
2. 事例紹介
3. 課題と取組み
4. 取り組みの成果
5. 今後の課題と取組み
6. まとめ

1　施設紹介

施設概要

- 平成21年6月伊豆の国市韮山に開設。
- 全室個室のユニット型施設。
- 特養　70床
  ショートステイ　10床
  デイサービス　定員25名
  訪問介護
  居宅介護支援事業所
  配食サービス（伊豆の国市委託事業）

1　施設紹介

利用者状況

- 男女比　　女性54名　男性16名　計70名
- 平均年齢　　88歳
- 平均介護度　　4.37

<内訳>

要介護3　8名
要介護4　28名
要介護5　34名

2　事例紹介

K様について

- 性別　　女性
- 年齢　　90歳
- 要介護度　要介護3
- 認知症度　ⅢA
- 日常生活自立度　A2
- 既往歴　　認知症　高血圧症　不整脈
- ADL　　移動…独歩（腰を曲げて掛け声を掛けながら歩く）
  食事…箸使用で自立
  入浴…個浴（拒否あり。特に洗髪を拒否する。）
  更衣…声掛けにて、自立
  排泄…自立（パット、排便確認、手洗い確認が必要）

2 事例紹介

・生活歴　　嫁ぎ先で、夫と苺農家を経営していた。

・入所経緯　　平成27年7月31日、畑仕事をしている最中に熱中症で倒れ、病院に入院となる。医療処置が終了し、退院可能となるが、同居の長男夫婦は苺農家で多忙の為、本人の徘徊への対応が難しく、当施設への入居を希望され、平成28年4月5日、入居の運びとなる。

【入居当初の様子】

慣れない環境と、認知症の症状により、落ち着きなく廊下やユニット内を、徘徊する姿が毎日の様に見られた。トイレの場所も認識出来ず、他入居者様の居室や倉庫、フロアーで放尿してしまう日々が続き、食事時には、自分のご飯を持ってトイレのタンクの上に置く姿が何度も見られた。常に日常において不安があり、帰宅願望や徘徊等、認知症状が顕著に現れていた。

3 課題と取組み

【課題】

1 徘徊

【取組み】

①席の配置の工夫

②レクリエーションの充実

③クラブ活動への参加

④やりがいを感じられるお手伝い

3 課題と取組み

【課題】

2 放尿

【取組み】

①動線箇所に張り紙を貼る

②声かけによるトイレへの誘導

③夜間のポータブルトイレ2個配置

3 課題と取組み

【課題】
3 トイレへのお供え

【取組み】
①ご家族への聞き取りを実施
②手作り仏壇の作成
③仏壇へのお供えと合掌を毎朝実施

4 取組みの成果

【放尿に対しての成果】

1 貼り紙と声掛けによるトイレ誘導を続ける事で、トイレの場所を覚える事が出来た。

2 夜間は居室に置くポータブルトイレの位置を工夫する事で、絨毯の汚染枚数が減少した。

4 取組みの成果

【トイレへのお供えに対しての成果】

1 仏壇を作成した事で、供える場所が出来た。
2 自宅での生活リズムを取り戻す事が出来た。
3 仏様に守られていると感じ、安心した生活が送れるようになった。

5 今後の課題と取組み

今後の課題：完全に徘徊や放尿がなくなったわけではないので、0になるよう働きかけていく。

今後の取組み：現在の充実した生活の中で、どのような時に徘徊や放尿があるのか、状況と状態の分析をし、対応していく。

手作り(

今までの生活
定した。放
尿や徘徊、帰
えない様、
楽しみのある生
いた。現在
では、当施設が
類で楽しく過さ
れている。

ご清聴ありがとうございました。